



医学部

教授 森田 敏子さん (基礎看護学)

Morita Toshiko

●プロフィール

1970年 立川病院附属立川高等看護学院卒業
 1983年 厚生労働省看護研修研究センター看護師養成所教員養成課程修了
 1983年 東京都立板橋看護専門学校教員
 1988年 玉川大学文学部教育学科(通信教育部)卒業
 1992年 岐阜大学医療技術短期大学部助教授
 1997年 佛教大学大学院教育学研究科生涯教育専攻修士課程修了
 1998年 福井医科大学医学部看護学科助教授
 2001年 熊本大学医療技術短期大学部教授
 2001年 医学博士(岐阜大学より授与)
 2003年 熊本大学医学部保健学科教授

両親の声に励まされて

全寮制の学生時代、森田さんは何度も挫折しかけてきました。入学直後に熊本弁を笑われたのがきっかけで、しゃべれなくなってしまったのです。おじけづき、萎縮して体を斜めに構え、しゃべらず硬い表情の森田さんを教務に呼び出した教師は、「森田さんは、いつもふてくされているように見えるけど、何か不満があるの」と切り出し、「あなたのような態度の学生は患者を受け持たせられない」と、微笑む練習をするように指導を受けました。

学習の過程でも失敗しては落ち込み、自信喪失になると、受験の時に両親から諭された「挫折しないで最後までやり遂げられるの」という母親の声と、「看護師になったとき、どんなことがあっても患者に優しく親切にできるのか」という父親の声が思い出されます。そして最後には必ず「大丈夫。あなたならやれるわよ」という母の声に励まされ支えられたのでした。

学生の目線に立って

いくつもの試練を乗り越えて、森田さんは看護師として働き出します。最初の2年くらいは失敗続きですが、4~5年程経験を積み、どのような状況の患者の看護もうまく実践できるようになり、自信もついてくるそうです。特に、学生実習がある時は、楽しくて一所懸命教えました。「教えるのが好きなんです」と森田さん。しかし、先輩看護師から「あなたは学生に警戒されている」と伝えられます。森田さんはどうしてなのかその意味がわからず、ずいぶん悩みました。そして、悩んだ末に「教え方を学ぼう」と決心します。

一年間、厚生労働省看護研修研究センターの教員養成課程で学んだ森田さんは、「自分の技術を全て教えたい」と思うあまり、実習生たちにベテラン看護師並みの高度なレベルを要求していたことに気づきます。「学生たちの目線に立っていなかったんですね。フォローもしていなかったし。学生たちにとってみたら、こわくて厳しい先輩看護師でしかなかった…」と思い至ります。

森田流幸せの見つけ方で

現在も教師である一方では学生として学ぶ日々を送る森田さんにとって、「看護教育方法」は、永遠のテーマです。「悩むことは大切だと思います。真剣に悩んだら、その先にある光もまた大きく輝くはずですから」。若い人たちには、夢と希望を持って欲しいと。なぜなら「それが、挑戦する勇気と努力による達成感を与えてくれるからです」。

「落ち込む時もあるし挫折もする」けれど、通勤の車の中で韓流ドラマのテーマ音楽を聞きながら、毎朝、幸せな気持ちで出勤。「前向きに取り組む態度を選ぶのは私」と、「森田流幸せの見つけ方」で颯爽と生活されていらっしゃいます。



「看護情報学」の授業風景

看護教育方法は永遠のテーマ